

関西週刊 Biz



年賀状の作成のため、カラープリンターがフル稼働する時期を迎える。ただ最近では電子メールや投稿サイトに押されて、年賀状自体は減少傾向だ。消費者から使用済みのインクのカートリッジを回収し、自社工場でインクを詰め替えたリユース品を純正より2〜3割安く販売しているエコリカの宗廣宗三社長に、近況と対策を聞いた。

(織田淳嗣)

——リユース品の売れ行きはどうか

「一昨年から昨年にかけて、キヤノンやエプソンなどメーカーから新しいプリンターが発売された。そのインクのカートリッジを大量にそろえ、さまざまな準

エコリカ

宗廣宗三社長

機先



むねひろ・しゅうぞう
昭和59年、コンピュータと周辺機器の卸売会社「エム・エス・シー」を設立。リサイクルを行う共同事業目的会社として平成15年にエコリカを設立し、現職。京都工芸繊維大卒。岐阜県郡上市出身。56歳。

リユースにも高い技術力を

きているが、大量生産や流通の効率化によるコスト削減効果の方が大きい。以前は中国に工場を持っていたが人件費が高騰したため、5年ほど前にフィリピンに工場を移管した。プリンターの製造業者も続々と人件費の安いフィリピンに工場を展開している」

うになった。ただ、法人向けで見れば、もともと省エネ性能に優れたインクジェット式のプリンターの処理速度が向上し、レーザープリンターからの置き換えの動きがある。ここで、環境に優しく高い品質のリユース品の良さを体験していただき、市場のシェア10%を取っていききたい」

備を経てリユース品の出荷の態勢が整うのが今月末。数量については今年の年末は期待できる。フィリピンに従業員600人の自社工

場を持っているが、10〜12月にかけて、ここ5年ではじめて24時間操業を行っているところだ」

——対パソコンについても安くはなっているが、対ドルほどの影響はない。円安はインク代より人件費に響いて

「市場全体の動きはインクの市場は右肩下がりだ。個人の方々はSNSの普及で、画像データを印刷せずにやりとりするよ

課題はどこにあるか
「リユース品の需要は高まっているが、純正メーカーの製品は複雑化している。リユース業界側も、技術力がなければきちんとした品質が得られない。高い技術を磨いていきたい」

——円安が進むが、影響